2022年度　松田病院　病院指標

・年齢階級別退院患者数
・診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）
・初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数
・成人市中肺炎の重症度別患者数等
・脳梗塞のICD10別患者数等
・診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）
・その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	0	25	185	244	332	422	415	578	242	36

当院の患者さんは、60歳以上の占める割合が51.27%で、最も多いのが70歳代（23.3%）、次いで50歳代（17.02%）60歳代（16.74%）となっています。全体を通して小腸大腸の良性疾患が多いです。年代別の疾患は、50歳代以下では、痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍などの肛門疾患の割合が高く、60歳代以上では、肛門疾患の他は直腸・結腸の悪性腫瘍の割合が高くなっています。また、70歳以上では、直腸脱・肛門脱の割合も高くなっています。

診断群分類別患者数等　（診療科別患者数上位5位まで）

◆消化器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	629	2.13	0	64.15
060241xx97xxxx	痔核	396	6.03	0	51.64
060235xx97xxxx	痔瘻	200	6.56	0	39.94
060220xx97xxxx	直腸脱、肛門脱	167	8.6	0	63.74
060230xx97xxxx	肛門周囲膿瘍	148	3.01	0.68	40.06

大腸ポリープや大腸腺腫に対する内視鏡治療で小腸大腸の良性疾患が最も多く、当院の専門性から痔核・痔瘻の症例数も多くなっています。また、直腸脱・肛門脱や小腸大腸の良性疾患の検査入院症例が多いですが、70歳代以上の高齢の方の割合が高いです。

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類基準（※）	版数
	StageⅠ	StageⅡ	StageⅢ	StageⅣ	不明			
胃癌	8	1	3	1	1	2	1	8
大腸癌	50	13	21	29	16	72	1	8
乳癌	0	0	0	0	0	0	1	
肺癌	0	0	0	0	0	0	1	
肝癌	0	0	0	0	0	0	1	

※　1:UICC TNM分類、2:癌取扱い規約

当院は5大癌（胃癌・大腸癌・乳癌・肺癌・肝癌）の中では、専門分野である大腸癌をメインに治療を行っています。UICCの病期分類では、StageⅢ・Ⅳが多くなっていますが、これは当院の専門性から肛門診察、大腸内視鏡検査による発見が影響していると思われます。また、大腸がん検診にも力を入れていることから、StageⅠの患者数が多いのも特長です。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	0	0	0
中等症	2	7	84.5
重症	0	0	0
超重症	0	0	0

脳梗塞のICD10別患者数等

該当なし

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

◆消化器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	613	0.12	1	0	64.49
K7434	痔核手術（脱肛を含む。）	233	0.82	6.73	0	48
K7432	痔核手術（硬化療法（四段階注射法による））	140	0.05	1.09	0	58.98
K7461	痔瘻根治手術（単純）	139	0.86	4.43	0	39.78
K745	肛門周囲膿瘍切開術	131	0.07	2.02	0	39.99

大腸ポリープや大腸腺腫に対するポリープ・粘膜切除術を最も多く実施しています。また、大腸肛門の専門病院として、肛門手術が1,000件以上あり、中でも痔核手術を最も多く行っています。

その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	症例数	請求率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0
		異なる	0	0
180010	敗血症	同一	0	0
		異なる	0	0
180039	その他の真菌感染症	同一	0	0
		異なる	1	0.04
180040	手術・処置等の合併症	同一	16	0.65
		異なる	0	0